

# 不妊症の漢方治療

黄 懷龍

当資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。

## 一、概 論

不妊とは避妊をしていないのに結婚して1年以上にわたって妊娠に至れない状態である。

中医学では「不孕」「無子」「断続」「全不産」などを称する。又、不孕を女性器の畸形などによる先天性不孕（五不女：五種先天性女性器畸形）と後天病理性不孕に分けられる。

現代医学の卵巣機能低下、子宮内膜症、骨盤腹膜炎など、各種疾患による不妊症は、中医学弁証論治で治療する。ここでは主に、女性不妊の弁証論治を中心に述べる

## 二、不妊の病因と治療

### （一）病因（西洋医学）

妊娠を行うには排卵して受精し、受精卵の輸送を行い、着床をする必要がある。これらのうちどれかが障害されると女性因子による不妊症となる。

＊女性側では、排卵の障害、卵管閉塞などの卵管因子、そして子宮因子や頸管因子に分けられる。頻度として最も多いのは卵管因子によるものである。また男性側の原因には、造精機能障害と精子射出障害がある。

## (二) 不妊症の治療（西洋医学）

一般的には、タイミング法、排卵誘発、人工授精、体外受精・顕微鏡授精というように、数周期おきに次の治療法へステップアップしていきます。

**器質的治療：**人工授精、生殖補助医療技術（ART）、卵管鏡下卵管形成術（FT）

**機能的治療：**タイミング法、排卵誘発、黄体維持（クロミフェン療法やゴナドトロピン療法など）

## 三、中医学子宮の生理機能

### (一) 子宮の生理

- 1、名称：女子胞、胞宮、胞臟、子臟、子室、血室など。
- 2、位置：明・張景岳《類經》「子宮.....居直腸之前、膀胱之後」。
- 3、形態：《景岳全書》には「陰陽交構、胎孕乃凝、所藏之处、名曰子宮、一系在下、上有二肢、中分為二、形如合鉢（中空宮体）、一達予左、一達予右」と述べました。

## 4、機 能：

《類經》「女子の胞、子宮是也、亦以出収精氣而成胎、孕者為奇」。

主な機能は、月経をコントロールし、胎児を孕むことである。

胞宮の実際の機能から言うと、内生殖器全体（子宮、卵巣、輸卵管）を概括するものである。

# 子宮の機能（奇恒の腑）

|   | 月 経                  | 妊 娠                |
|---|----------------------|--------------------|
| 蔵 | 月経後——次の月経<br>まで      | 妊後——分娩前            |
| 瀉 | 月経期（受胎しない<br>、経血が排泄） | 分娩（妊期満、胎<br>児娩出する） |
|   | 産後悪露を排泄する            |                    |

奇恒之腑：（脳、髓、骨、脈、胆、女子胞）

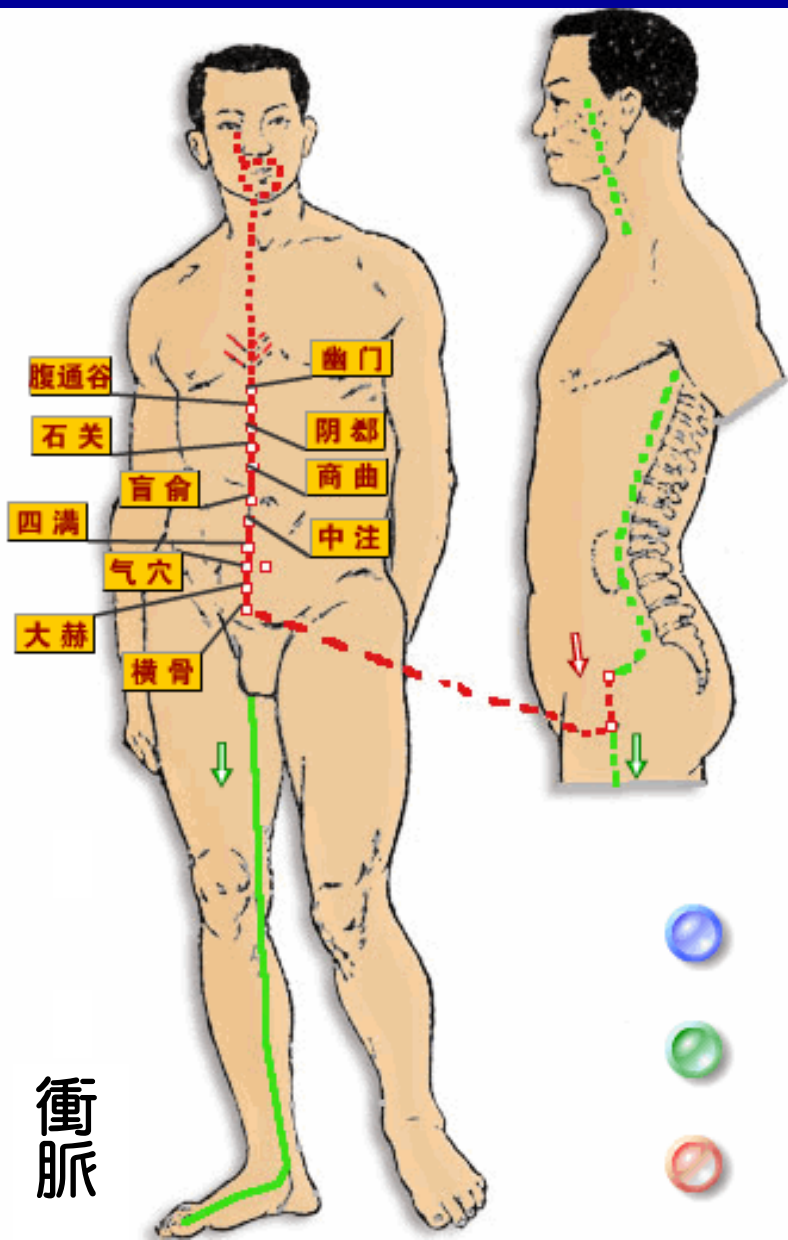
## (二) 経絡と妊娠

### 衝 脈

胞中（子宮）に起こり、  
下って会陰に出て、気衝で  
腎経、足の陽明胃経と交  
わって、上へ喉に至り、唇  
をめぐる。小腹部にも1分  
枝あり、脊柱内を上行する。

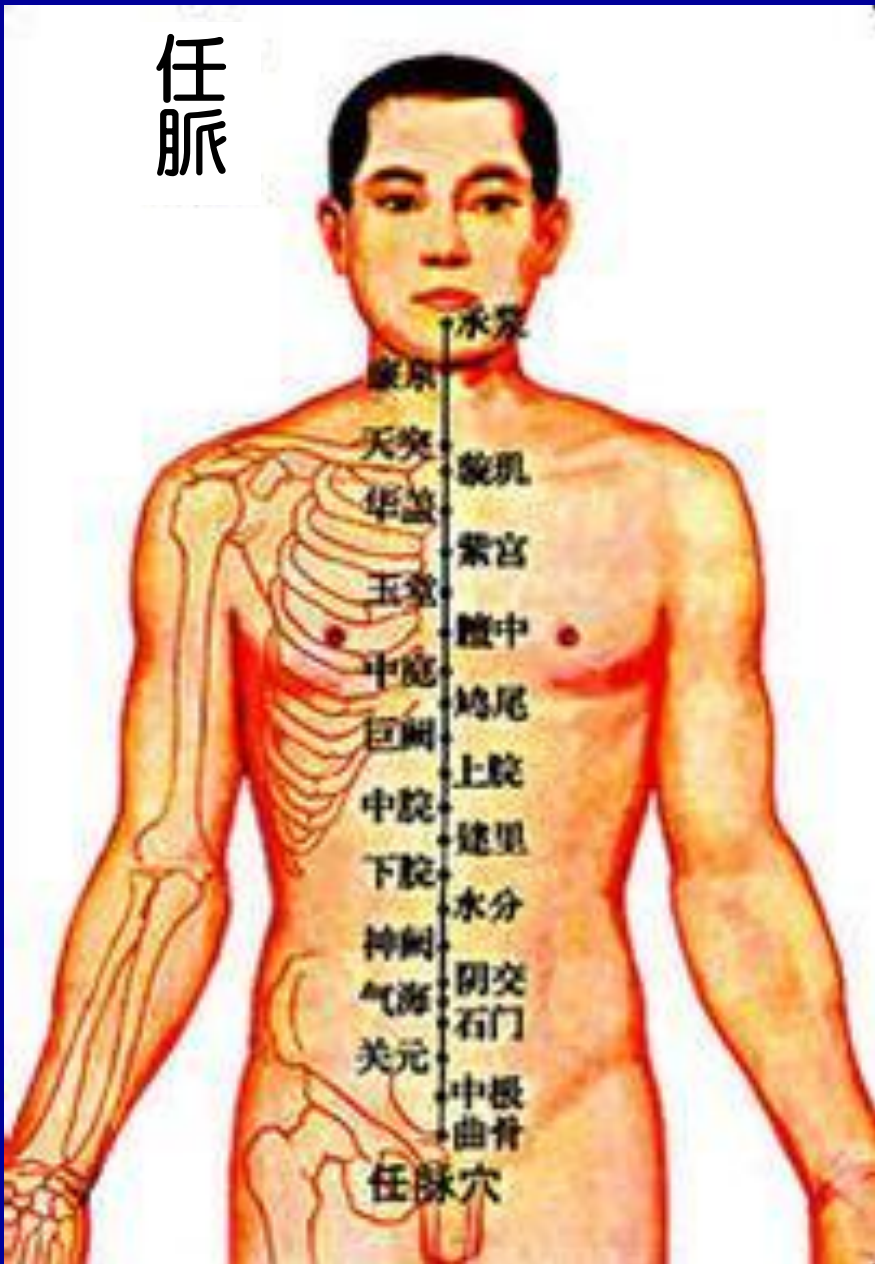
十二経絡の気血を調整し、  
月経を調節する。

「衝脈は血海をなす」





## 任脈



## 任脈

胞中（子宮）から起  
こり、下って会陰に出  
て、腹部正中線を上行  
し、陰部、腹部、胸部  
を経て下唇下部正中に  
至る（膻中で全身陰脈  
と集める）。

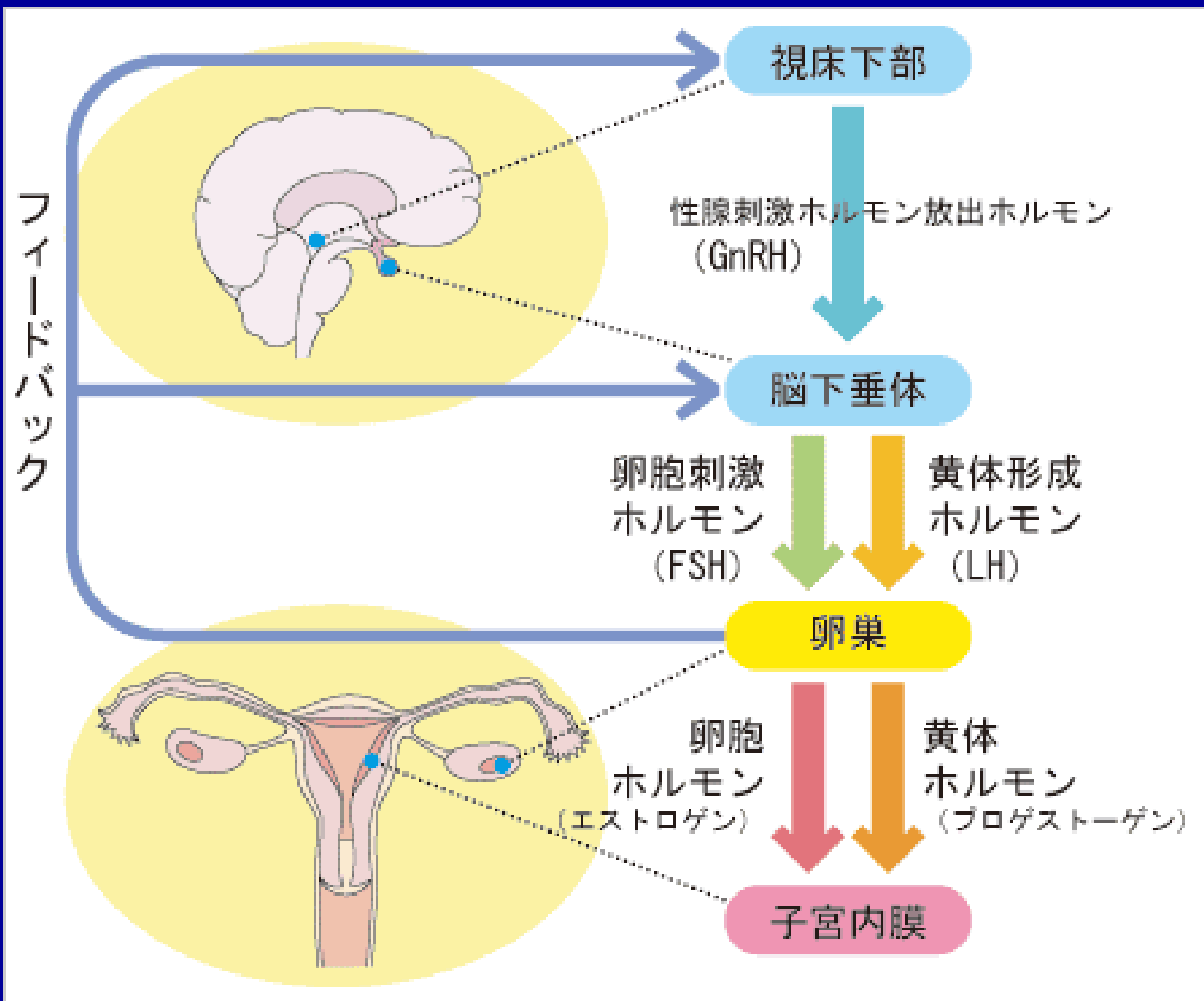
「任主胞胎」（任脈は  
月経を調整し、胎児を  
養い育てる）。

### (三) 妊娠と腎気

- ・ 月経の発生は、主に腎気、天癸、衝任脈、臟腑、気血が協調して子宮（卵巢、子宮、輸卵管）に作用するため。
- ・ 《素問・上古天真論》「女子七歳、腎気盛、齒更髮長、二七而天癸至、任脈通、太衝脈盛、月事以時下、故有子、……七七任脈虚、太衝脈衰少、天癸竭、地道不通、故形壞而無子也」。

# 中医腎軸理論

# 女性の性腺軸



(一次的な下垂体機能亢進 (性腺、甲状腺、副腎皮質刺激ホルモン亢進))

## 四、不妊症の病因病機

不妊症は臓腑機能失調、気血失和と関係があり、特に腎と密接な関係があり、又天癸、衝任、子宮の機能失調、臨床では腎気不足、肝郁気滞、痰湿阻滞、血鬱胞宮などに関連し、衝任失調、胞宮失養を招き、それによって受胎に影響を与えている。  
具体的な病因病機は以下である。

## 一、腎氣虚損

腎は生殖を司り先天の本である、腎氣虚弱、衝任二脈が不足に、不妊症の主な原因である。

**腎陽虚**：先天不足、又は房事過多、長期病による損傷など、胞宮虚寒を招き、命門の火が虚衰して妊娠することが困難である。

**腎陰虚**：精血虚損、胞宮は濡養に失われ、精を摂取できず、又は陰虚火旺、血海蘊熱、攪乱衝任。

**臨床特徴**：月経後期或は先期、量が少なく色が薄く、腰と膝がだるさ、寒がり手足が冷たい（陽虚）、或は経血暗紅、潮熱盗汗（陰虚）。

## 二、肝郁気滞

肝主疎泄、調暢気機、精神抑鬱、情志不調またはストレス過多により肝気が鬱結する。気血運行が阻害され、衝任脈滋養し合うことができない、精を摂取できず、不妊症が起こる。

**気滞血鬱**：肝郁は気血の運行に影響し、突き進んで不通になり、卵子の排出が阻害された。

**肝郁化火**：郁久化熱、灼傷陰血、排卵と着床を妨害する。

**臨床特徴**：月経不順、経前乳房の膨張痛、イライラして怒りやすい、または経血に血塊を挟む。

### 三、痰湿阻滯

胞宮環境失調、脾虚運化が異常または嗜食肥甘厚味であり、痰湿内生を招き、胞宮を塞ぐ。痰湿性ブロック沖任、卵子発育及び卵管開合に影響する。

**痰鬱相結**：痰湿と血鬱相絡、多嚢胞卵巢などの病理産物を形成する。

**臨床特徴**：体型肥満、月経稀発或いは閉経、白帯下粘稠量が多い。

## 四、血鬱胞宮

気血が滞って鬱血になる寒冷凝固、気滞または手術外傷により鬱血内停、衝任二脈阻滯され、胞絡不通となった、不妊症が起こる。

**寒凝血鬱**：経期に寒さを受けたり、素体の陽虚を受けたりして、血の進行が遅れて、鬱阻胞宮。

**気滞血鬱**：気血が滞り、日がたつにつれて鬱血となり、胚着床に影響を与える。

**症状特徴**：生理痛が激しく、経血紫色に塊があり、あるいは子宮筋腫、内膜異位を伴っている。



## 五、不妊症の証治

### 1、腎陰不足

【症状】 不妊、月経周期が正常より短い、経血量が少なく色が濃く。体が倦怠感、腰や膝のだるさ、手足のほてり、眩暈、耳鳴など陰虚体質、慢性疾患、失血、体力精力の消耗。舌質紅、舌苔少、脈細数

【治法】 滋陰益腎、養血調経

【方薬】 左帰丸・養精種玉方「傳青主女科」加減  
(熟地黄、当帰、芍薬、山茱萸、女貞子、早蓮草、牡丹皮、黄柏、亀板) ※六味地黄丸

## 2、腎陽虚弱

【症状】 不妊、月経周期が正常より長く、経血色が薄く量が少ない、ひどい場合は閉経。顔面灰暗色、精神不振、腰や膝のだるさ、尿は透明で長い、四肢の冷え、寒がりなど陽虚体質。舌質淡、舌苔白、脈沈細または沈遅

【治法】 温陽補腎、益気調経

【方薬】 右帰丸・毓麟珠『景岳全書』加減

(菟糸子、杜仲、鹿角霜、紫河車、熟地黄、当帰、白芍、川芎、人参、白朮、丹参、香附子)

※八味地黄丸

### 3、肝気鬱結

【症状】 精神抑鬱、怒りっぽい、不妊歴が長く、月経不順、月経前あるいは月経期間中の腹部や乳房の脹痛感、経血量が少ない、骨盤内鬱血症候群など。舌質紅、舌苔簿、脈弦。

【治法】 疎肝解鬱、養血調経

【方薬】 開鬱種玉湯「傳青主女科」・逍遙散加減  
（当帰、白朮、白芍、茯苓、香附子、牡丹皮、柴胡、鬱金、女貞子、早蓮草、川楝子）  
※加味逍遙散、抑肝散、柴胡加竜骨牡蠣湯

## 4、痰湿阻滯

【症状】 不妊、肥満、経血量が少なく月経周期が長い、ひどい場合は閉経、帯下が多い、倦怠感、めまい、胸悶。  
舌質淡、苔白膩、脈滑

【治法】 化痰燥湿、理気調経

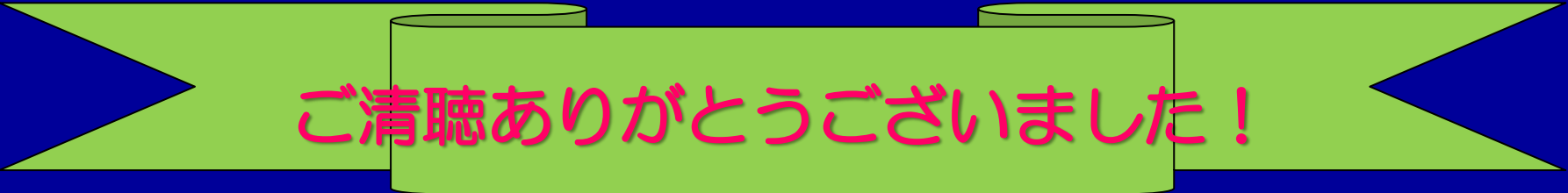
【方薬】 蒼附導痰湯加減  
(蒼朮、香附子、陳皮、制半夏、茯苓、川芎、石菖蒲、神麴、菟糸子)  
※当帰芍薬散、五積散、防己黄耆湯

## 5、血瘀氣滯

【症状】 不妊、月経周期が長い、経血は量が少なく黒紫色で血塊が混じる、月経痛。  
小腹部の刺痛、拒按など。  
舌質暗紫、瘀血斑、点脈細澁

【治法】 活血化瘀、行気通経

【方薬】 少腹逐瘀湯「医林改錯」加減  
（当帰、丹参、芍薬、川芎、延胡索、五霊脂、没薬、蒲黄、香附子、桂枝、小茴香）  
※桂枝茯苓丸、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、温経湯、



ご清聴ありがとうございました！